

国際交流つうしん



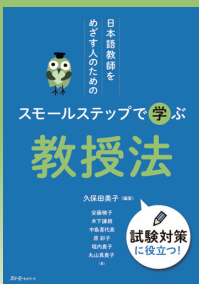
NPO法人日本ウクライナ友好協会KRAIANYが運営するアートスタジオ「DuKaChi」によるパフォーマンス

目次

- P.2～3 国際フェスタCHIBAを5年ぶりに対面で開催！
- P.4～5 事業報告（令和6年7月～10月）
- P.6 団体活動紹介 ～オアシス協同組合～
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 世界からようこそ千葉県へ！ ～ウズベキスタン共和国～

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**



一歩ずつ無理なく着実に学習できる一冊！
**日本語教師をめざす人のための
スモールステップで学ぶ 教授法**

久保田美子 編著
安藤暁子・木下謙朗・中島喜代美・原彩子・
堀内貴子・丸山真貴子 著
2,200円(税込) B5判 145頁 別冊23頁(解答・解説)

日本語教員試験対策に役立つシリーズ教材です。『教授法』のほか、『文法』『音声』、各電子書籍も好評発売中！ 詳細はコチラから→



新刊

最新刊や教材の使い方の動画の情報等は <https://www.3anet.co.jp/>

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は
**出入国在留管理局への出頭が
免除されるので、仕事や学業に
専念することが可能です。**

お問い合わせは…

千葉県行政書士会

www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL：043-227-8009 FAX：043-225-8634



国際フェスタCHIBAを5年ぶりに対面開催しました！



国際フェスタCHIBAプログラム

- 10：30～11：30 外国を知ろう！スタンプラリー
- 11：30～11：40 ピアノ&歌（ブラジル）
- 11：40～12：10 歌&ダンス（ウクライナ）
- 12：10～12：20 ダンス（インドネシア）
- 12：20～12：50 民族衣装ファッションショー
- 12：50～13：00 ピアノ（中国）
- 13：00～13：30 琴演奏&体験（日本）

10月11日（金）、当財団が入居する、幕張テクノガーデン（MTG）の2階アトリウムピアノラウンジにて、国際フェスタCHIBAを開催しました。ここ数年はオンライン開催でしたが、5年ぶりの対面開催となった今回のフェスタ。スタンプラリーや外国の衣装を着てランウェイを歩くファッションショー、ピアノや箏の演奏、外国の歌やダンスパフォーマンスなどが披露され、華やかな1日となりました。一般の方、当財団の会員・ボランティアの方やMTGのテナントの皆さんなどたくさんの方にお越しいただきました！

外国を知ろう！スタンプラリー

6カ所全てのブースを回ってスタンプを集めてきな景品と交換できるスタンプラリー♪



NPO法人日本ウクライナ友好協会 KRAIANYブース
雑貨販売と「国旗の色は何を意味しているか？」などのクイズでウクライナを紹介していただきました。



千葉県ユニセフ協会ブース
地雷を作るにはどのくらいかかるか、除去するのにどれだけの労力がかかるかなどを来場者と一緒に考えました。

音楽・パフォーマンス

大迫力のピアノやダンスなどのパフォーマンスで観客を大いに魅了しました！



NPO法人日本ウクライナ友好協会 KRAIANY・スタジオ「DuKaChi」
質の高い歌、ピアノ、ダンスパフォーマンスで会場を大いに沸かせました。



インドネシア シンタクスマニンティアスさん
インドネシアの伝統舞踊を披露していただきました。



箏遊会による琴の演奏
琴を通じた国際交流活動を行う団体によるパフォーマンス。琴の体験会には、数名の外国人が参加してくれました！



ブラジル 梶原リカルドさん
ブラジルの曲やプレスリーの曲等を弾き語りしていただきました。

6つのブース：①ウクライナ ②中国 ③ブラジル ④インドネシア ⑤千葉県ユニセフ協会 ⑥千葉県JICAシニアボランティアの会

民族衣装ファッションショー

今年の国際フェスタのメインイベントである民族衣装ファッションショーには、22組が参加し、1組ずつ衣装を披露しながらランウェイを歩きました。マレーシア、タイ、コスタリカ、タンザニア、中国や日本の浴衣など、さまざまな国の華やかな衣装が披露され、最後に出演者全員でウクライナのフォークダンスを踊りました。



(内モンゴル/アディンガさん)
内モンゴル自治区の故郷で
購入した民族衣装



(タンザニア/笹瀬さんファミリー)
家族でおそろいの
タンザニア衣装



(ベトナム/土井さん)
ホーチミンシティで
仕立てたアオザイ



(スリランカ/田所さんファミリー)
スリランカの伝統的な
サリーとサロン



いよいよフィナーレ!
みんなでウクライナの
フォークダンス



(マレーシア/中村さん)
マレーシアの
フォーマルな衣装

パネル展

ICEA（国際文化交流協会）、千葉県ユニセフ協会、千葉県日独協会、千葉ウイスコンシン協会、JICA東京、千葉県国際交流センターの6団体のパネルを10月4日～11日まで、アトリウムに展示し、多くの方に御覧いただきました。



参加者からのコメント

千葉にいなから、世界各国の文化に触れることができとても楽しかったです。ウクライナ人によるウクライナの歌、インドネシア人によるインドネシアのダンス、現地で仕入れた民族衣装と、本当に贅沢な時間でした。

家族でファッションショーに参加させていただき、楽しい思い出ができました。素敵な会場で、民族衣装がより映えた気がします。



◆国際協力パネル展 そごう千葉店（7/2～8）

千葉県国際交流センター、千葉県ユニセフ協会、JICA東京、千葉県の4団体で、そごう千葉店のそごうギャラリーにて国際協力パネル展を開催しました。事業紹介のパネルや写真を展示したほか、千葉県外国人相談や外国人のための無料法律相談等のチラシを配架するなどして、当センターの事業を紹介しました。

◆ユニバーサルスポーツフェスティバル2024 in CHIBA（7/14）

「年齢、国籍、障がいの有無にかかわらず、スポーツをみんなで楽しむ！」をコンセプトに、ユニバーサルスポーツフェスティバル2024 in CHIBA。昨年に引き続き、JICA東京 千葉デスクと共催で実施しました。大人、子ども、外国籍の方、障がいをお持ちの方など、多様なバックグラウンドを持つ参加者たちが混合8チームを作り、ボッチャ、卓球バレー、モルック、ウォーキングフットボールでチーム対抗戦を行いました。

今年度は、千葉県生誕150周年の行事として開催し、チーバくんもサプライズ登場して、会場を盛り上げてくれました。



◆千葉県災害時多言語支援センター設置（8/15～17）

台風7号の接近に伴い、千葉県と連携し、千葉県災害時多言語支援センターを設置しました。多言語支援センターでは、24時間体制で外国人からの相談に対応したほか、台風への備えや県防災ポータルサイト等、外国人に役立つ災害情報をHPやSNS等で、多言語で発信しました。災害時に防災知識や日本語の理解が十分でない外国人をしっかりサポートできるように、平時からできる準備をしていきたいと考えています。



◆災害時多言語支援センター設置運営訓練（8/21）

千葉県と共催で、市町村や市町村国際交流協会の職員等を対象に、「災害時多言語支援センター」の設置運営訓練を実施し、27名が参加しました。台風被害を想定した訓練では、県災害対策本部からの情報を元に、支援内容や翻訳言語の検討、外国人向けの災害情報のチラシ作成などを行いました。また、避難所で困っている外国人への対応を想定し、①中国語の語学ボランティア、②被災者役の中国人、③日本人支援者の3者で、タブレット端末を利用したビデオ通話で、困りごとの聞き取り等の訓練も実施しました。県内各地の自治体から来た参加者が協力し、外国人支援という共通の目的を持って取り組んだ今回の訓練が、関係者間のネットワーク作り及び各自治体の体制の強化の一助となればと思います。



◆多文化共生社会理解促進講座（7月～10月）

当センターにボランティア登録のある、さまざまな国籍の在住外国人がゲストティーチャーとして県内の小中学校を訪問し、出身国の文化や習慣について楽しく伝える講座を実施しています。

7月から10月では5校、医療機関3カ所で実施し、外国ルーツの生徒さんが多く在籍する佐倉市の小中学校では、インドネシアやパキスタン出身の講師がムスリムの文化について紹介し、先生も生徒もみんなで外国ルーツのあるクラスメートの文化を理解しようという取組がなされました。

ヒジャブと呼ばれるスカーフを一緒にかぶってみんなで記念撮影をしたりして、ムスリムの文化に触れました。



◆国際交流・協力等ネットワーク会議 (9/5)

千葉県と共催で、関係団体間の連携促進を目的とした国際交流・協力等ネットワーク会議を開催し、73名の方にご参加いただきました。第一部では、千葉大学大学院社会科学研究院の小川玲子先生をお招きし、「千葉に住む外国人の全体像と特徴」をテーマに、県内在住の外国人の人数、在留資格、主な出身国、他県と比較した千葉県の特徴などについてご講演いただきました。



第二部では、①国際交流の活動、②外国人の活躍、③外国人の子育て・教育、④外国人への情報発信の4つのテーマに分かれて、意見交換会を実施しました。高騰する姉妹都市交流での派遣費用の対策、外国人母子への支援の事例、外国人への情報発信の工夫などそれぞれの団体のアイデアを持ち寄り、外国人当事者の声を聴くなどし、活発な意見交換が行われました。参加者からは、「同じ千葉県内でも、様々な市町村の現状が聞けてよかった」、「外国人の方の意見も聞くことができて勉強になった」などの声が寄せられました。

◆ちば地域多文化共生円卓会議 (9/21)

外国につながる子ども若者支援ネットワークが主催する標記会議に、参加しました。外国につながる子どもたちの教育や生活上の課題などを中心に、専門家、支援者、外国人当事者などそれぞれの立場で事例を報告し、その後発表者が参加者の質問に答える形で意見交換が行われました。外国につながる子どもの中退率の高さや進学率の低さなどの教育の課題、四街道市や佐倉市に多いアフガニスタンの方の学習支援の状況、スリランカの方が多く住む山武市教育委員会の取り組み等、実際の現場で活動する方や当事者の声を聴く貴重な機会になりました。

◆日本語フォローアップ講座 (子ども編・生活者編) (9/24・26)

日本語学習支援者の方々を対象に、フォローアップ講座を2日間開催しました。

子ども編は地球っ子クラブ2000代表の高柳先生を講師にお迎え、遊びを通じて教科学習につなげる支援方法を紹介していただいたり、子どもとの向き合い方についてお話しいただきました。

宮城県国際化協会地域日本語教育コーディネーターの鈴木先生による生活者編では、自作の文字カードを用いて漢字の教え方について実演いただいた他、参加者に実際にゲームを体験してもらうなど、大いに盛り上がりました。

子ども編の終了時アンケートでは、「教え方より関わり方が大切、という先生のお話に背中を押された」という意見が複数聞かれました。また、生活者編の終了時アンケートでは、「教室活動ですぐに使える内容でよかった」という声が多数聞かれました。



子どもへの支援活動編の様子



生活者(大人)への支援活動編の様子

千葉県国際交流センターHP&SNS

千葉県国際交流センターでは、センター主催のイベントや県内の国際交流・協力団体の情報のほか、各種相談窓口や日本語教室のリストなど、外国の方にも役に立つ情報をホームページで紹介しています。またFacebook・Instagram・X(旧Twitter)で最新情報も発信していますので、ぜひご覧ください。

HP



Facebook



Instagram



X(旧Twitter)



技能実習制度は主にアジア圏の若者たちに日本の技術を学んでもらい、身につけた技術を母国へ移転することを目的として2017年に制定されました。

千葉県の実習生、特定技能外国人の人数は、およそ23,000人。全国でもトップ5に入ります。千葉県にはコンビニ弁当等を製造する食品工場が多く、また農畜産業や水産業も大変盛んで、制度として農林水産業、建設業、食品製造業等の決められた職種で受け入れ可能です。



千葉県は、受入企業や職種が多く彼らの選択肢が多い事に加え、生活者としてスーパーや病院、娯楽施設が徒歩や自転車でいける距離にあること、母国で憧れた東京が近いこと、また地方部に比べ賃金も高めであることが彼らにとって魅力的なようです。

私たち監理団体は外国人を雇用したい企業から相談を受け、各国送り出し機関と連携して現地での人材募集を行っています。オアシス協同組合では主に、インドネシア、フィリピン、ベトナム、ネパール、中国から技能実習生の受け入れをしており、現在は830名以上が在籍しています。企業の社長や採用担当の方と実際に現地へ赴き技能実習生と面接を行います。

最近では、実習先として台湾や韓国なども人気で、特にベトナムの候補生を受け入れすることが難しくなっています。半年ほどの準備期間を経て入国した技能実習生は、まず山武市蓮沼にある講習施設で1か月間、日本語や日本での生活マナーを学び、その後地域の企業へ配属されます。

実習開始後は、受け入れ先企業との間にトラブルが起こっていないかどうか、定期的にチェックを行うため、毎月実習先を巡回訪問し、実習生がいつでも悩みを相談できるよう母国語話者の職員との面談を設定しています。また、企業側向けには、働きやすい環境づくりのためのセミナーの開催や、わかりやすい日本語の話し方、実習生たちと接する際の注意点などの情報提供を行っています。

言葉だけではなく文化や習慣の違いから互いの誤解を招き、ときにはトラブルに発展することもあります。企業と実習生双方から丁寧に聞き取りし、話し合いを重ねて解決することはとても大変なことですが、私たちの大切な役割だと考えています。

旭市、千葉市、佐倉市、市原市などの農家では7年以上働いている方もいて、季節ごとに様々な野菜や畜産物を出荷されている農家にとって、今では欠かせない人財となっています。皆さんがスーパーで購入するキュウリやトマト、大根などは、彼らが収穫したものかもしれません。



農業だけでなく、漁船や、建設の基礎工事や内外装、配管工事等さまざまな現場においても、私たちの生活を支える仕事をして活躍しています。もはや彼らがない現場を探す方が難しいかもしれません。

今後、特定技能1号から試験を受け特定技能2号に移行すると家族を呼び寄せることができるようになると、より長期での滞在が可能になります。彼らが千葉県、地域社会に根差していく外国人生活者として、社会にとっても欠かせない一員となっていくことを願っています。

今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
多文化共生社会理解促進講座	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッション等を中心としたクラス授業の実施	随時
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	11月
日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座	初心者を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための講座	11~12月
国際理解セミナー(県と共催)	県民に広く、国際理解を図る講座、意見交換	12/8(日)
国際理解セミナー(JICAと共催)		2月
外国人相談基礎知識研修	外国人相談に役立つ基礎的事項を学ぶ講座	1月
多文化子育てサロン	子育て世代の外国人を対象とした子育ての知識を学ぶ講座及び親子交流会	1・2月
オンライン日本語教室	県内の外国人を対象にオンラインで日本語を学ぶ講座	1~2月
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講演・意見交換会	2月

JICA千葉デスクが交代しました

「ボイナラビエン！」

JICA千葉デスクに着任いたしました笹瀬正樹（ささせまさき）と申します。2015年～2017年に、私はJICA海外協力隊として大洋州にあるパプアニューギニアという国の小学校で活動をしていました。パプアニューギニアには800以上の部族があり、それぞれが独自の言語を話します。冒頭の「ボイナラビエン！」は、私が活動をしていたニューブリテン島のトーライ族のあいさつです。

実は、私は最近まで教育NGOの仕事でアフリカのタンザニアに住んでおり、帰国して引っ越してきたのが千葉でした。住んでみると、病院やスーパー、駅など、生活の中で外国人の方と出会う機会の多さにびっくり。千葉県民になってまだ日は浅いのですが、「とても国際的」という印象を持っています。

JICA千葉デスクは、千葉県におけるJICAの窓口として、世界とつながり、学び合う活動のお手伝いを致します。「国際協力に興味があるけど、何をしたらよいかわからない」などお困りの方、「JICA海外協力隊」「開発教育」「多文化共生」というワードにピンときた方、JICA千葉デスクまでお気軽にご連絡ください。



配属先の小学校の児童と民族衣装で

教師海外研修に参加した先生が国際教育の授業実践

JICAが実施する「教師海外研修（※）」に参加された市川市立宮田小学校の執行先生からのお便りをご紹介します！

今年度の教師海外研修は、バングラデシュ国内の大規模デモの影響により、派遣自体が中止になってしまいました。その代替として、JICA東京にて2泊3日の国内研修が実施され、国内にしながらバングラデシュをあらゆる角度で知ることができました。その中でも、一番印象に残った「児童労働」を題材とし、自分たちと同世代の子供たちが置かれている現状を知り、その背景を考える授業を行いました。子供たちの振り返りには「すべての問題はつながっている」「日本に生まれてよかった。けれど、大変な思いをしている人がいることを忘れて



執行教諭の授業の様子



付箋を用いてディスカッションする児童

てはいけない」「この問題について自分たちにできることはなんだろう」という感想が多くありました。この1時間の授業は、他国について考えるきっかけでしかなく、今後世界についてどう触れたり、考えたりしていくかは子供たち次第です。知らない世界や文化に触れることで自分の世界観を広げたり、自国や他国の良さに興味・関心をもったりできる機会を作れるよう、私自身グローバルな視点を持って、日々の教育活動に取り組んでいきたいです。

※教師海外研修とは？

教員の方々が実際に開発途上国を訪問することにより、途上国が置かれている現状や国際協力の現場、途上国と日本との関係に対する理解を深め、帰国後は学校現場での授業実践等を通じて、児童生徒の教育に役立てていただくことを目的として実施しています。また、本研修修了後も、教育現場で開発教育・国際理解教育に取り組む中核人材として活躍いただくこともねらいとしています。現地での学びを授業に生かすため、海外研修の他に訪問前の事前研修・訪問後の事後研修に加え、2月の実践報告会で一般の方々に向けて授業の実践報告にご参加いただき、1年間を通じた深い学びを目指しています。

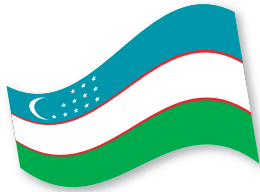
JICA千葉デスクへのお問い合わせは以下までお願いいたします。

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 笹瀬 正樹

TEL：043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX：043-297-2753 E-mail：jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp





世界からようこそ千葉県へ!

ウズベキスタン共和国



※外務省ホームページより引用

千葉県国際交流センターに出前講師として登録して下さっているナジロフ・ドニヨルさんに寄稿して頂きました。日本の製造メーカーで10年以上海外営業に携わったあと、日本とウズベキスタン両国の発展に貢献したいとの思いで株式会社ニッポンドを設立したそうです。

ウズベキスタン紹介

ウズベキスタンは、日本から見れば馴染みの薄い国かもしれませんが、その独特の地理と豊かな文化は非常に魅力的です。ウズベキスタンは、海に出るためには最低2回国境を越えなければならない「二重内陸国」の1つです。これは世界でも非常に珍しく、他の国でこれに該当するのはリヒテンシュタインだけです。そんな環境で育つウズベク人にとって、海を見るという経験は特別なものです。初めて海外旅行で海のある国を訪れた際、真っ先に海を見に行くという話もよく耳にします。

人口は約3,700万人で、その面積は日本の1.2倍です。ユーラシア大陸の中心に位置し、北はカザフスタン、東はギルギスやタジキスタン、南はトルクメニスタン、アフガニスタンと国境を接しています。

ウズベキスタンは、1991年にソビエト連邦から独立した比較的新しい国家ですが、経済発展とともに近代化が進んでいます。歴史も非常に古く、特にシルクロードの重要な拠点として知られています。サマルカンド、ブハラ、ヒワ、フェルガナといった都市は、かつての交易の中心地として発展し、今でもその歴史的な遺産が色濃く残っています。



ウズベキスタン料理写真(真ん中にあるのはピラフ)

14世紀には、ティムールがサマルカンドを首都に選び、インド北部から中近東にまで及ぶ巨大な帝国を築き上げました。このように、ウズベキスタンの歴史は壮大であり、その影響は現在の文化や風土に強く反映されています。

ウズベキスタンの「スタン」はペルシャ語で「土地」や「国」を意味し、それぞれの国名には「カザフ人の国」「ウズベク人の国」といった意味が込められています。



青を基調とした美しいリシタン陶器

リシタン陶器の美しさの魅力

ウズベキスタン東部のリシタンは、「リシタン陶器」と呼ばれる青色の陶器と日本語を無料で教える「のりこ学級」という日本語学校で有名な町です。リシタンは中央アジア全体でも最も古くからの陶器の中心地として知られており、その歴史は9世紀に遡ると言われています。観光客にも非常に人気が高く、お土産で買って帰る観光客も少なくありません。職人ごとに異なるデザインやスタイルがあり、一枚一枚が独特の表情を持つのもリシタン陶器の魅力です。

日本においても、リシタン陶器の美しさが徐々に知られ始めています。(サマルカンドブルーやシルクロードブルーとよく言われますが、陶器や地下鉄駅、サマルカンドの世界遺産も青色が特徴です。)

株式会社ニッポンドは、リシタン陶器を輸入し、日本国内で販売を行っています。ウズベキスタンの美しい文化や芸術を通じて、日本人にウズベキスタンのことを知ってもらい、2国間の人的、経済交流の発展を期待しています。



古代ブハラの風景



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階
TEL: 043-297-0245 FAX: 043-297-2753 E-mail: ied@ccb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/hgo!>

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)